

ヨーロッパの中世

中世世界とは何か

■講師 名古屋大学名誉教授 佐藤 彰一

ヨーロッパの中世を中世たらしめている独自の要素とは何か。それはいかなる意味で先行する古代、後続の近代と区別されるのか。国家や社会、統治や政治秩序のありようを探り、貴族層や修道院の系譜をたどりながら、広くユーラシア的時空を見据えて、ヨーロッパ中世1000年の歴史的・文化的骨格を明らかにします。



名古屋大学名誉教授。日本学士院会員。専門は、フランク王国史を中心とする西洋中世史。1968年 中央大学法学部卒、1969年 早稲田大学文学研究科入学、1969-1971年 カン大学留学、1978年 日本学術振興会奨励研究員、1979年 愛知大学法経学部助教授、1984-1986年 パリ第10

大学在籍、1987年 名古屋大学文学部助教授、1991年 同教授、2000年 同文学研究科教授、2002年 同高等研究院教授、2009年 同特任教授、2009年 学士院会員。著書に『修道院と農民—会計文書から見た中世形成期ロワール地方』（名古屋大学出版会 1997年）、『ポスト・ローマ期フランク史の研究』（岩波書店 2000年）、『歴史書を読む—「歴史十書」のテクスト科学』（山川出版社 2004年）、『中世初期フランス地域史の研究』（岩波書店 2004年）、『ヨーロッパの中世（1）中世世界とは何か』（岩波書店 2008年）など多数。2002年 日本学士院賞受賞。

日程 テーマ

7月1日 ヨーロッパの空間的特徴

歴史は一定の空間の中で生起する事象である。ヨーロッパ空間の特徴を知ることは、これを枠組として展開した歴史の独自性を理解するための必須の条件である。西ユーラシア地域としてのヨーロッパ空間の特徴を、先史時代にまで遡って考える。

7月8日 ローマ帝国の長い影

西ユーラシアに君臨した最大の強国はローマ帝国である。北欧を除く今日のEU以上の広がりをもったこの一大政治・経済・文化覇権勢力は、476年のその政治的没落の後、ヨーロッパ中世に巨大な影を落とした。その多様な局面に光を当てる。

7月15日 中世国家の変遷

ポスト・ローマ時代は、あたかも国家が存在しない世界のように見なされるが、それは大きなあやまりである。近代国家をモデルにした国家観を基準にしては掬い取れないポスト・ローマ時代の国家を出発点として、中世ヨーロッパの国家の変遷をたどる。

7月22日 ヨーロッパ貴族の源流

中世ヨーロッパの政治や社会で大きな役割を果たしたのが貴族である。ギリシア・ローマの古典古代世界では、政治生活の根底にあったのは共和制の原理であった。中世以来、近代にいたるまでヨーロッパ社会を支配した「血統」の原理の実態を考える。

ありか

7月29日 教会と修道院—聖性の在処—

キリスト教の誕生と社会への浸透は、ヨーロッパ社会の姿を一変させた。その根底に終末の思想を湛えたこの信仰体系は、人々が生きる日々の生活を、来るべき彼岸の世界との関わりで自ら検証するよう促す。教会と修道院という新たな宗教実践の組織と社会の関わりを見る。

8月5日 近代への胎動

中世末期はヨーロッパが新たな原理に向って大きく展開を遂げた時代である。地理上の「発見」から、科学思想の革新にいたるまでその事象は多岐にわたるが、その中でも特にフランスが百年戦争の苦難のなかで掴んだ統治原理の革新について見てみたい。

●日 時：全6回 木曜 10:30～12:00

●受講料：6回分 13,860円
※新入会の方は入会金4,200円が必要



朝日カルチャーセンター
朝日JTB・交流文化塾

名古屋

名古屋市中区栄3の4の5
スカイル10階
Tel 052-249-5553